20210418レムナント教会1部

**カナンの正体3(征服と勝利)(ヨシュア21:43-45)**

　コロナ禍のなかでも皆で教会に集まって礼拝を捧げることができるのはとても感謝でしかありません。教会に集まってともに交わり礼拝を捧げることは、言うまでもなくとても大切なものです。しかし、教会に集まって礼拝を捧げることがなぜ大切なのかと言いますと、結局皆さんはそれぞれの現場に戻って現場を生きなければなりません。その現場では様々なことが私たちを待ち構えています。いろいろな状況が展開されます。そこで[どのようにすればいいのか」「なぜこういうことになるのだろう」という疑問などに走る前に、まずそこに送られているクリスチャンとしてのアイデンティティを確認すること、そして、それを先に告白すること、それが順番として正しいものです。そのために礼拝は何より大切なものになります。今日もこの礼拝を通して、現場において皆さんがどういう存在で、どのような位置づけなのかというアイデンティティを聖書を通して確認し、それを契約として握り、実際に告白して現場に臨むようになることを祈りたいと思います。

　今日の聖書の箇所は、神様の約束通りにイスラエルの民がカナンの地に入って、そのカナンの地を約束通りすべて征服し勝利を収めたというまとめです。なぜイスラエルはカナンに入って、このカナンの地を征服し、勝利者としてしっかり立つことができたのでしょうか。その理由は一つしかありません。このカナンの地は約束の地です。その約束はキリストなのです。彼らが優秀で優れているからではなくて、また、カナンの相手が弱いからでもなくて、キリストのゆえに、キリストのために彼らは勝利者となりました。なのでカナンという言葉を聞いたときに何を思い浮かべるべきなのかと言いますと、征服、そして、勝利という言葉です。今までカナンの正体について、まずカナンと言われると約束の地ということが浮かびました。神の約束です。そして、カナンと言われたときに、聖絶という強烈にインパクトのある言葉が思い浮かぶようになります。それからもう一つ、カナンを通し私たちが思い浮かべないといけない言葉は、征服、勝利という言葉なのです。それがカナンの正体です。これからも皆さんがカナンという言葉を考えたときに、なるほど、征服、勝利とすぐに結びつけることができるようになることを祈りたいと思います。

　そういう意味で、イスラエルのカナンの勝利というものは、

第一に、信者は現場征服の勝利者として派遣されている者だということを知らせるものなのです。

それがカナンの勝利というものです。言葉を変えますと、カナンの勝利というのは、信者は現場を生かすために伝道者として派遣されている者だということに釘をさすものです。

それでまず、信者の私たちが現場がどんなところなのかを正しく理解しないといけないし、正確に申し上げると、正しく見る目を持たないといけません。これは信仰の目であり、他の人は見ることができないものなのです。現場を正しく見ることによって、私たちのアイデンティティ、現場征服のための勝利者ということが明らかに、明確になるでしょう。先週も申し上げましたように、現場というのは基本的に神様を離れたところです。神様抜きにして人間自ら幸せをつかむためにもがいているところ、そこが現場というところなのです。それを見ないといけません。そして、その幸せというものも目に見えるところから、目に見えるものを通して手に入れようと頑張っているところがこの世、現場というところです。そして、その結果、世の中での成功というものが自分に幸せを与えてくれるだろうと信じ込んで頑張っているところ、そこが現場というところなのです。話は別に悪い話ではありません。しかし、そのようにして幸せが手に入るかと言いますと、とんでもありません。どんなにもがいて頑張っても求めていた幸せは自分のものになりません。これは失敗だと認めたくないので、その限界の穴を埋めようとして作り出したものが宗教なのです。宗教というものを通して穴埋めしようとしているし、もう一つは、偶像を作って偶像崇拝をしながらその幸せがない穴埋めをしようと頑張っています。ときには占いを通してその穴を埋めようとしているところが現場というところなのです。それらは本当は幸せがないという裏返しのようなものなのに、伝統あるいは文化という服を着せてしまうため、皆ごまかされてなかなか気づくことができないでしょう。それが現場というところなのです。ですから、もがいていても、穴埋めをしようとしていても、結局は幸せになれないので、実際的にはひとりひとりが精神的に心から疲れていて、心の中にまことの安らぎなどは全く見られません。平安などはありません。それゆえ不安を抱えて、何かに執着することによって突破口を求めようとしているし、あるいはそこにのめりこんで依存症や中毒に走るようになるしかありません。これが現場というところなのです。精神的に皆不安の中で疲れているのです。そうじゃないふりをしている人は、まだまだ自分でごまかす力を持っているからそうしているだけであって、実際正直には皆疲れているのです。その結果、肉体は悲鳴を上げるようになるしかないし、人間関係、あるいは国と国との関係、様々な関係などは破壊されるようになるしかありません。なので生きること自体が疲れてしまうし、残るのは空しさ以外には何もありません。正直に素直になりますと、人生そのものが空しくなるのです。そして、誰ひとり例外なく、死の恐怖につながれて人生を生きているし、このような不幸が自分の代では終わらずに、家系をずっと流れて終わりのないものになります。これが実際の現場というところです。信者の私たちが派遣されて生きて行かないといけない現場はこのようなところなのです。これをクリスチャンの私たちがしっかりありのまま見ないといけません。そして、それを見るだけではなくて、世の中の人は見ることができない霊的事実を見るようにしなければなりません。それは何でしょう。なぜ現場がこのようになるしかないのかと言いますと、神様を離れた結果、目に見えないけれども、この現場を支配するものがいるからです。聖書にはそのものを世の神と言っています。悪魔、サタンと言われているもの、目に見えないので世の中の人は誰も見ることができません。信者の私たちはそれを見ることができる者なのです。なぜ穴がいっぱい空いていて、皆もがいているのか。しかし、その求めている幸せは手に入れることができないのか。それで結局皆疲れてしまっているのか。それは現場を支配する者、世の神と言われている悪魔、サタンがいるからなのです。それが空中の権威を持つ支配者と言われているし、全世界を惑わす力を持っているものと言われているものです。それが悪魔、サタンというものなのです。そのような現場に信者の私たちを神様は送り出しました。派遣していらっしゃいます。なぜなのでしょうか。その現場を征服する勝利者として派遣していらっしゃるのです。そういう意味で現場征服ということは武力によって勝ち取ることではありません。霊的な戦いなのです。現場征服というのは、現場の実情を正しく理解しているものが、その現場を支配している偽物の王、悪魔、サタンを打ち破って勝利すること、これが現場征服です。どのようにでしょうか。悪魔の頭を踏み砕いて勝利なさった復活の万軍の主、イエス・キリストの御名によって現場支配者、悪魔、サタン、悪霊の力を縛り上げること、打ち破ること、これが現場征服なのです。そのために信者の私たちは現場に派遣されている者なのです。お金儲けのために、ただの勉強のためにではありません。そして、現場征服というのは、その支配者を縛り上げることによってそこに捕らわれていた現場のたましいをそこから引き上げることです。それが現場征服です。どのようにでしょうか。イエス・キリストの愛をもって。イエス・キリストのいのちの福音をもって必ず勝利するようになります。一言で申し上げると、福音宣教によって、光を放つことによって、現場を征服して勝利者としてしっかり立つようになります。これこそが現場征服ということなのです。

　皆さん、カナンの歴史の証拠をもって信者の皆さんが現場征服のための勝利者として派遣されているのだということを確認して、確信していただきたいと願います。信者であれば子どもでも老人でもどのような現場、どのような職業でも構いません。信者であれば誰でもこの征服の主人公として派遣されているものだということを覚えましょう。しかもこの勝利ができるようすべてを全部そろえて、すべてを備えて派遣されました。これが本部のメッセージからも今頻繁に語られている御座の祝福というものです。ただ現場で征服のための勝利者になりなさいということで送り出されたわけではありません。すべてを備えて、すべてをそろえて、それから派遣されているので問題ないし、心配ありません。Ⅰコリント3：16、あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることが分かっていないのか。神の霊が皆さんに宿り、皆さんとともにいて、それで皆さんが派遣されました。Ⅰペテロ2：9、あなたがたは、王である祭司なのだ。イエス・キリストと同じ権威をもたせて現場に派遣されるようになります。ですから、ルカ10：19にあるように、蛇とさそりを踏みつける権威、権限をいただいて現場に送り出されている者だということを忘れてはいけません。また、へブル1：14、時間、空間を超越する天の御使いが動員される、天の御使いが手伝って働く、その祝福を備えてこの現場征服のために送り出されている者なのだということを、今を生きる私たちに教えるために昔、カナンの征服の歴史を神様は作られたわけです。神様が約束されたところをすべてイスラエルに与えられてイスラエルが勝利した記録を見て「ああ、すごいな」で終わってはいけません。「あっ、だから今を生きるクリスチャンの私にこれを示すためなのだね。今あなたの現場に征服者として神様は派遣していらっしゃる。必ず勝利するようになるし、そのためのすべてが備えられて派遣されている者なのだよ」と。結局このような約束を信じて、それを心にしっかり抱いて祈ることさえあれば、それで結構なのです。それがカナンの征服を通して私たちに示されることです。本当にそうです。そして、皆さんもこのような約束を信じる信仰をもって祈りによって神様が勝利を与えられるのだということを体験しないといけません。その勝利が今の皆さんの現場で皆さんを待っています。なのでこのように言えるでしょう。

　2番目、カナンの勝利というのは、信者は必ず自分の現場において神の勝利を自分のものとして体験するようになるということを知らせるものがカナンの正体です。

神の勝利を自分の勝利として体験するようになります。言葉を変えると、祈ることさえあればということでしょう。皆さんご存知のように、イスラエルはすべての面において不利なものばかりなのです。軍事力もなく軍事訓練なども受けたことがありません。今まで荒野を通ってきて戦争の経験は1、2回ぐらいはありましたが、彼らの戦略や兵器の力などによって勝った経験はほぼないわけです。そして、そのカナンの地は原住民と比べると地形も何も分からないところです。なのであれこれ考えてもイスラエルは不利なことばかりなのです。それなのにカナンを征服して勝利しました。つまり、神の勝利なのです。クリスチャンの私たちは約束さえしっかり握って、自分がそのように派遣されている者だというアイデンティティさえ忘れていなければ、それで祈ることさえあれば必ず神の勝利が現れるようになります。カナンに入る前にモーセの時代にあらかじめ神様はそれを見せてくださいました。モーセの時代、荒野を通るときにアマレクというところがイスラエルの行く道を邪魔しました。そこで戦争になり、モーセは戦場に行かずに山に登って神様にお祈りを捧げていました。手を上げてお祈りをしていたときに、イスラエルは勝利します。しかし、手が下がるとイスラエルは負けます。そこでアロンとフルという人が両腕を支えて、ずっと手を上げることができました。それで結局イスラエルは勝利しました。イスラエルはその現場に出て戦うのはもちろん事実なのですが、彼らの戦い、彼らの力によって勝利するものではなくて神の勝利なのだということです。だから、信者が弱く、あるいは条件が不利、有利などにこだわる理由もないし、それに引っかかってもいけないのだよということを前もって教えてくださったわけです。それから、それをエリコ城の戦いで改めて再確認されましま。エリコ城はどのようにして陥落したのでしょうか。戦争などしたでしょうか。神様から言われた通りに、エリコ城をぐるぐる回っただけです。回って最後に角笛とともに一斉に叫んだときにエリコ城が崩れ落ちて、それでそのエリコ城を征服することができたのです。一般の戦争みたいな戦いをしたわけではありません。もちろんこれから形はそういうものがいろいろ現れます。しかし、根底の方では、それは神の戦いであり、神の勝利なのです。イエス様のときも同じです。復活のイエス様がオリーブ山に弟子たちを集めて、「これからあなたがたは現場征服の勝利者として送り出されるのだよ」とおっしゃったときに、弟子たちは「この国を再興してくださる時が今なのでしょうか。今私たちは植民地であり、社会的な地位も身分も財産もいろいろな意味で何も持っていないし、海辺の砂の一滴のような存在にすぎないのになにができるのでしょうか」という意味でイエス様に訴えました。そのときにイエス様が「それはあなたがたは知らなくていいよ。聖霊が臨まれると力を得て、エルサレムから地の果てにまで福音をもって、イエスのいのちをもって、イエスの愛をもって、暗やみを打ち破って証人として征服することができるよ」とおっしゃり、その通りになって今の私たちにまでこのイエスの福音が届いているわけです。神の勝利です。皆さんが現場征服の勝利者として派遣されているアイデンティティを明確にして、そのためのすべてが備えられているということを信じて祈ることさえあれば、不信仰を捨てて、言い訳などを捨てることさえあれば、必ず現場は動くようになります。そして、必ず門が開かれるようになります。ですから、そのときに戸惑わないために、そのときにきちんとそれに対応できるようにあらかじめそれを見て備えて行かないといけません。神様が答えを与えられたときに戸惑わないで、それを見逃すことがないように。答えが来たときには躊躇せずに大胆に福音を語ればいいです。むやみにやるということは望ましくありません。しかし、約束を信じて、すべてが備えられていることを信じて、不信仰、言い訳を捨てて祈っていれば、そこから与えられる答えがあります。その答えを前もって正しく見ていないといけません。前もって見ることをVisionと言います。まだ起きていないのに目をつぶって祈っていると、それが目の前に来ているかのように見えるわけです。皆さんの現場で暗やみの力が砕かれて、現場が動いて備えられているたましいが皆さんに集まってくるということ、そこで皆さんに先に来ていらっしゃるイエス・キリストをそのたましいにおあかしする絵を見ていないといけません。それはただの願望ではなくて事実なのです。だた起きていないだけであって、神様には昨日も明日もありません。事実なのです。それをどれほど祈りの中で事実として映像化しているのかというのが大切なことだと思います。そして、あらかじめ備えないといけないのは、そのたましいとともに、一回で終わるのではなくて、そこの現場征服のための拠点にして持続してキリストを分かち合う、その時間、空間の準備、心構えを前もってしっかりしていないといけません。

　今年この教会のレムナントの中で三人のレムナントが大学に入学しました。大学の勉強はとても大切です。しかし、学校では真理を教えることはありません。不可能なのです。真理は教会で教えるものなのです。学校の学問というのは参考になるものであって、ときには教会で教える真理と正反対のものを教える場合もありますので気をつけないといけません。基本、学校の学問というものは、霊的な事実はすべて無視して、無視というよりは無知のまま成り立っているものなので、それがまるで正解であるかのように受け止めていてはいけません。逆に、ある場合はそれがなぜ間違っていてダメなのかということをしっかり証明するために、他の人より一生懸命勉強しないといけない場合もあります。ですから、学生さんがその学校に入って、この約束を握って、その現場を観察しないといけません。「神様、現場がこうだと聖書が言われている通りに正しく見て、それが心に刻まれるように」。その祈りとともに見ると見えます。精神的に疲れていて、自分の力で幸せをつかもうとして穴だらけの姿が見えます。また、悲鳴を上げている姿が見えます。こういうことが祈っていると皆さんに映ってくるわけです。そうすると、祈るようになるでしょう。彼らにキリストがあかしされるように祈るようになります。それで十分なのです。ただ、結果が必ず来ますので、現場は必ず動きますので、皆さんには御座の祝福があるわけですから、あらかじめそれに備えて持続できる週一回場所、時間、起こされたときに必ずそこに連れてくることができる場所を備えるそういう心構えをもって大学現場に行って祈ってみてください。学生さんだけではなく、皆が同じです。これはクリスチャンの祝福です。皆さんはそのために召されている幸いな存在です。これが私たちのアイデンティティなのです。

この約束を握って、今現在皆さんに許されている現場、それがどこのどのような現場であっても、その現場に対しての不満、言い訳、あるいは人間の欲などを全部押さえて、征服、そして、勝利の場として認識していただきたいと思います。つまり、そこの現場はイエス・キリストの御名の権威によって悪魔、サタンを縛り上げ、イエス・キリストの愛といのちの福音をもってたましいを生かすために許されている現場なのです。その現場がきつい場合もあるし、やりやすい場合もあるし、いろいろあります。それは関係ありません。目的は同じです。その目的のために勉強も他の人より頑張るしかありません。仕事も他の人より10倍頑張るようになるでしょう。それがツールですから。その現場に入って目に見えない悪魔、サタンをしっかり見るようにならないといけません。そして、現場で答えがないままさまよっているたましいの姿を実際的に観察するような姿勢を取らないといけません。皆さんは必ず現場征服の勝利者として立たされるようになるでしょう。理由は一つしかありません。キリストのゆえに。キリストのために。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。ありがとうございます。今日ここに来ていらっしゃる神の民ひとりひとりは現場征服の勝利者として召されていること、そして、未来を変えるための主人公として召されていることを信じて主に感謝を捧げます。ひとりひとりが自分でその自覚が持てるように神のみことばが自分の思いを振り払って神のみことばが考えに刻まれるように心からお願いをいたします。契約を握って現場で静かに祈ることができるようにひとりひとりを導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン